

大学間連携組織による留学生のキャリア支援

—地元企業・行政・大学のネットワークが創造する実践の場—

Carrier Support for International Student

through University Consortium:

Practical Activity Field Creation through Network

with Local Company, Administration and University—

大学コンソーシアムひょうご神戸副事務局長 中水 かおる

NAKAMIZU Kaoru

(Hyogo-Kobe University Consortium)

キーワード：留学生、キャリア支援、フォローアップ

“グローバル人材”として期待される留学生たち

大学連携の魅力はチャンスの多様性

大学コンソーシアムひょうご神戸は、兵庫県内の大学等高等教育機関 42 校（33 大学、8 短期大学・短期大学〈部〉、1 高等専門学校。2016 年 2 月現在）が加盟する大学連携組織です。2006 年 6 月 12 日に発足以降、“国際性”を中核に、兵庫県及び中心都市神戸市の特性と地元の大学間連携組織ならではの特徴と強みを活かせる事業を展開しています。時代の変化と普遍性の両方を見据えて、1 大学単体で取り組むよりも、より高い効果が期待できる活動の事業化を行っています。

その中でも特徴ある事業の一つとして、留学生支援事業があります。日本では 2008 年に日本政府が策定した「留学生 30 万人計画」をもとに、2020 年までに日本国内の留学生数を当時の 12.4 万人から 30 万人に増やす「グローバル戦略」が進んでいます。

このような社会的な背景もあいまって、兵庫県の大学には留学生が数多く在籍しています。現在、兵庫県下では約 4000 人の留学生が学んでいますが、大学により留学生の在籍数が 1 人から 1000 人規模まで幅が大きく、留学生に特化した個別支援の体制や情報量が異なるのが実状です。コンソーシア

ムのような大学間連携組織の事業運営であれば、所属大学の垣根を越えて留学生が等しく学ぶ機会を提供できます。広く県内大学を対象に、熱意のある留学生すべてにチャンスを与え、学びの質を重視した個別対応が可能になります。大学と連携して事業運営することで教育的な位置づけができるとともに、各種カリキュラム内容と学生支援に関しては、連携組織ならではの多様性を鑑みた柔軟なプログラムを運営できます。文化的背景が異なる多国籍の留学生に対して、グループ学習を取り入れると同時にマンツーマン指導による丁寧なフォローアップを継続的に行える点で、留学生支援は連携型の支援が適しており、現在はその効果が発揮されていると考えます。

この取り組みの契機となっているのは、当組織の場合、2009年度に当時は全国的に稀少であった留学生に特化したインターンシップ事業をスタートしたことです。当初の2年間は文部科学省の採択プログラムとして運営し、それ以後、現在に至るまでコンソーシアムの自主事業として計7年間継続しています。インターンシップが留学生自身の将来のキャリア形成の強い意識付けとなり、日本企業への就職を強く希望するようになる学生もいます。

近年、“グローバル人材”としての留学生の活躍が日本で期待されるという社会的な背景もあり、行政及び産業界、他の事業体との連携・協働も大切にしている取り組みを進めています。具体的には、2011年度から兵庫県と連携して、海外展開支援人材の育成・就職促進を実施しています。県内大学や地元企業・団体等に多くのご協力をいただきながら、留学生が地元企業の魅力や特長について理解を深め、留学生のキャリア形成の一助となるような支援を産学官連携と大学間連携の立場から地道にすすめています。

留学生には専門的な視点に立った支援が必要

ひょうご留学生インターンシップ

就業力の育成にインターンシップが注目されるなか、当組織では、留学生に特化したインターンシップの事業目的として、以下の2つをあげています。

- 1 兵庫県内の大学に在籍し、日本での就職を希望する留学生に教育の一環として企業・団体・行政機関等でのインターンシップを実施し、就職のための企業理解の一助とすること。加えて就職支援も行う。
- 2 企業の経営者に留学生の特性と日本企業で働きたいという強い意欲を理解いただき、留学生の採用に向けた支援を行う。

この目的を達成するために、インターンシップは、



写真 1 実習に意欲的に取り組む留学生（ひょうご留学生インターンシップ）

①学部・学科で学んでいる専門知識が活用できる「テーマ型インターンシップ」、②企業での実務体験ができる「就労体験型インターンシップ」、③企業の経営理念を理解し、実務体験後にテーマ発表を行う「テーマ・就労体験併用型インターンシップ」の3種類を用意しています。大学から推薦を受けた学生を対象として、それぞれのプログラムは、受け入れ企業の特長、応募学生の資質と希望についてヒアリングを重ねた上で、独自に個別プログラムを設計しています。

インターンシップ生と受け入れ企業のマッチングは、大学コンソーシアムひょうご神戸事務局と留学生の指導経験が豊かなキャリアカウンセラーによる面談を1人20分ほど全学生に行います。受け入れ学生の選考は、企業による選考とはせず、事務局がすべて行っています。事務局が日常的に受け入れ企業を訪問し、社風や経営理念を含めた事業内容、実習期間中の企業側の受入体制などを



写真 2 実習に意欲的に取り組む留学生（ひょうご留学生インターンシップ）

深く理解しているため、企業との信頼関係ができていくことが、学生の未来を拓く適性なマッチングの実現につながっています。実習先決定後は、約半年間かけて、日本企業の仕組み、理念、社会人マナー、チームワーク等、日本の企業風土について理解します。具体的には、事前ガイダンス、個人面談、複数回の事前学習を経て企業でのインターンシップを行い、その実習後も事後研修、修了報告会と、日本で働くための社会人基礎力が身につくマンツーマン指導を行います。



写真 3 半年間の研修を経て、企業・キャリアへの報告会（ひょうご留学生インターンシップ）

この7年間、留学生が在籍するほぼ全ての加盟校（計20大学）から303名の修了生を輩出し、受入企業総数は54社となりました。また、2015年10月調査では、インターンシップ修了生の47%が日本企業に就職しています。時代の趨勢もありますが、年々日本での就職者が増えています。産官学連携のメリットを最大限に活かし、国際都市神戸としてグローバル人材の育成に寄与していると考えます。

一方で、日本への留学理由が希薄である留学生には、自分の将来を考えるに際し、明確な意識をもって、就職活動にのぞむことが重要となります。母国での就職活動と異なり、日本での就職に関する情報の入手が困難な留学生には専門的な視点に立った支援を受けられることが重要です。今後は、支援を受けて日本企業で就職した加盟校の留学生ネットワークを構築し、更なる活躍をサポートすると

ともに、社会人となった先輩留学生と現役留学生をつなぐ支援を継続してゆくことも考えています。

他大学の学生との真剣な交流、自己理解で学生がめざましく成長

留学生交流会

異なる大学に通う多様な留学生が一同に集い、留学生と身近な先輩の真剣な交流による自己理解が留学生の成長に与える影響は非常に大きいです。また、留学生のみを対象としたプログラムだけではなく、県内に10万人以上いる日本人学生との合同交流会も開催しています。文化的・社会的に異なる背景を持つ留学生に対して、日本人学生とともに就業意識の醸成を行うことで、日本での就職活動におけるミスマッチングを減らし、留学生のよりよい人生へと繋がる支援を目指しています。

また、日本人学生にとっても異なる文化と価値観を持つ留学生との出会いと交流が、ともに刺激しあい、相手を尊重し、一人ひとりの多様性を学びあう場になっています。例えば、今年度は留学生が自身の将来を、多角的視野をもって考えられるように、4つのプログラムを行いました。

■留学生のためのOB・OGとの車座懇談会

企業に就職している留学生のOB・OGに、就職後の自分自身の変化、日本の会社で働く為の注意点・心構え、就職活動でのアドバイス等を話して頂き、その後、参加留学生を小グループに分け、OB・OGと働くことについて本音の懇談を行いました。

■留学生インターンシップ同窓会～国際都市神戸で繋がる～

ひょうご留学生インターンシップ修了生のヨコ・タテの繋がり強化が、留学生ネットワーク構築の一歩であると考えております。学生と社会人の交流は勿論、就活前の3回生と就職を控えた4回生の交流、また企業で活躍する外国籍社員同士の交流を開催しました。

■合同模擬グループディスカッション（日本人学生・留学生対象）

大学キャリアセンター職員と企業の協力のもと「働くこと」をテーマに、所属大学の垣根を越えた学生同士のディスカッションの場を設定しました。就職活動のためのテクニカルな視点ではなく、何事にも主体的にリーダーシップをとるマインド、そして自分と仕事の関係に気づく機会となりました。



写真 4 フランクな雰囲気の中で熱心にOB・OGと懇談する留学生（車座懇談会）



写真 5 合同模擬グループディスカッション（日本人学生・留学生対象）

■地元の大学生×社会人の車座懇談会（日本人学生・留学生対象）

地元での就職を選択した社会人3～12年目の先輩と現役大学生の交流の場を作り、本音の議論を通して、神戸企業で働く魅力について、身の丈で考える選択肢と視野を育み、就職後のギャップを減らすと同時に神戸の魅力を再発見する機会としました。

先輩留学生、日本の経営者、日本人学生との交流を通じて、留学生は自分の適性を見つめなおすことができます。日本における就職活動、そして仕事への理解不足を解消し、多面的見方を得ることで不安を払拭し、県下での就職活動に積極的に向き合っています。

地元企業と留学生の魅力をそれぞれに伝える工夫が大切

留学生就職支援事業

■グローバル人材活用セミナー

兵庫県下の大学・短期大学に在籍する留学生の雇用促進を目的に、県内の中小企業と大学・短期大学のキャリアセンターを対象にしたセミナーを開催。今年で3回目となり、毎回約30社の中小企業と留学生が多数在籍する約10大学のキャリアセンターが参加しています。留学生を雇用した場合の利点あるいは課題等を



写真 6 熱心に講師の講演を聞く企業の方々（グローバル人材活用セミナー）

中心とした演題で、毎回2名のゲストを招いて講演と交流会を実施し、大学に対して地元企業の留学生採用の実態についての理解を深めるとともに、企業に対しても留学生を採用する効果について理解を深めて頂き、留学生の雇用促進を図ることを目的にしています。

2015年はベトナム総領事館の副総領事、中国と関係の深い企業の会長が登壇。講演では①外国人を採用している企業・団体の実態を知る②実態を通じてその利点、問題点を理解する③問題点の対応へのヒントを示すことが主題でした。セミナー参加企業からの声としては、「ベトナムの最新情報が得られた」、「ベトナム市場に興味を持った」、或いは「中国と日本の面白い話が聞けた」等のコメントがあり、ベトナムと中国の経済の現状・実態についての動向を紹介。企業、大学双方の交流会でも「関係者と知りあえた」「情報を得ることができた」等のコメントがあり、本音の意見を語り合える、関係が深まる相互理解の場へとつながりました。

但し、留学生採用については、既に採用した経験のある企業、関心はあるがまだ採用経験がない企業、これから検討する企業等、参加企業の留学生採用の経験値や動機と考え方に大きな違いがあり、この差異を踏まえた内容を丁寧に考えていくことがセミナー開催の重要な視点となります。

■ 合同企業説明会

日本で就職したいと考える留学生と留学生を採用したいと考える企業との出会いの場として、兵庫県下の留学生のための合同企業説明会を開催しました。就職に対して情報が不足気味の留学生へ就職支援をすることを目的に、当日は留学生を採用する意思のある企業のみが参加しています。留学生と企業がより理解を深める機会をつくるため、3部構成として、第1部はグループディスカッション。参加学生をグループに分けて、テーマごとにディスカッションを行います。第2



写真 7 整然と企業の方の説明を聞く留学生（合同企業説明会）

部の企業説明会では、企業ブースごとに座席数を決め、学生を割り振り、少人数で質疑応答ができる形に工夫し、留学生は企業内容をしっかりと把握できる仕組みを工夫しています。第3部の懇談会では留学生と企業の方が身近に話ができる時間としました。

同様の主旨で、合同企業説明会は3年間実施。毎回80名程の留学生が参加しており、本年度の追跡調査では、この企業説明会をきっかけに企業研究の視点を養い、選択肢を広げて、自らの就職活動に生かした結果、1割弱の留学生が参加企業で内定を得ているようです。加盟大学のキャリアセンターでも就職支援活動のひとつとして活用している学校があるとともに、例年、継続的に参加を希望する企業もあります。

日本で就職したい留学生は、留学生の活用と育成に意欲的な企業の情報を必要としているため、彼らに対して選択肢を少しでも多く提供するために、大学教職員、地元企業や経済団体、行政とともに、留学生にとってはなじみが薄い地元企業への理解を深めてゆくことが重要と考えます。

加えて、地元兵庫県では中小企業が海外事業展開等にあたって、必要な人材として留学生等を採用又は内定した場合に、県が採用奨励金を支給する取り組み等も行われています。このように、産官学が一体となって、県内の大学に在籍する留学生に対する将来を見据えたキャリア形成と就職支援が行われてきた実績と多様な視点、地域性を生かしながら、今後も大学間連携の分野から、地域や学生一人ひとりに貢献してゆける取り組みを展開していきたいと考えています。